

■徳川家治 江戸幕府第10代将軍。歴代将軍中、最高の政治知識を有し、例外的な愛妻家。田沼意次を用いて繁栄を現出。とくがわいえはる

・・・・・・1737＝ 江戸城西ノ丸で、第8代将軍徳川吉宗の長男家重の子に生まれる。母は側室於幸の方(梅溪通条の娘)。_幼名は家光・家綱にしかつけられていなかった家康と同じ竹千代。

・・・・・・1741＝ 4歳：元服して権大納言に叙任。

_幼少時よりその聡明さから、祖父吉宗の期待を一心に受け寵愛され、

徳川吉宗隠居1745＝ 8歳：_祖父吉宗は、父家重を第9代将軍にして隠居し、時間的余裕ができたことから、菅原伝授十・1746＝ 9歳：家重が言語不明瞭ながら側近らに守られて無事政權を全うして行く間、_吉宗から直接帝王学を教えられ、文武に明るくなる。さらに家治付小姓などにも吉宗自ら養育し、後継者体制を万全なものにしたという。

忠臣蔵・・・・1748＝11歳：吉宗は家治を閑院宮直仁親王の娘倫子女王と婚約させ、・・・・・・1750＝13歳：吉宗は幕府財政の健全化を図るため、予算制度を新設して、徳川吉宗没・1751＝14歳：_吉宗が死去。

山脇東洋解剖1754＝17歳：倫子と結婚。自然真営道・1755＝18歳：徳川将軍家では例外的に愛妻家で、正室倫子女王との間に2女を儲けるも、男子を得る事ができず、近臣が側室を薦めてもなかなか選ばずにいたが、

大岡忠光没・1760＝23歳：*父家重の隠居で、第10代将軍となる。早速、武術等の途絶えていた儀式を復活させ、巡見使の傲慢さを排除したのを皮切りに、国民がより自由・平等に働けるようにするとともに、対外政策も緩和、・・・・・・1761＝24歳：*父家重が死去、その遺言に従い、田沼意次を側用人に重用し、老中松平武元らと共に施政。藩主らに「武家諸法度」を再認識させて、藩政改革への契機をつくり、上方文化に対抗しうる江戸文化の醸成に努め、・・・・・・1762＝25歳：遂に田沼意次の薦めで、田沼も側室をもつことを条件に、側室を選び、家基が誕生。倫子女王は家基をわが子のように可愛がって養育、側室2人がそれぞれ男児を産んだ後はお役御免かのように通わなかった。

加賀千代句集1764＝27歳：蘭金銀錦絵始1765＝28歳：ペルシャ馬を望んで、オランダから献上される。祖父である吉宗のように名君たらんと、吉宗以上の質素儉約に努め、大奥の経費を吉宗の頃よりさらに三割削減するなどし、

御蔭参流行・1771＝34歳：最愛の妻倫子が死去。田沼意次老中1772＝35歳：_田沼意次を老中に任命、大原騒動・・・・1773＝36歳：婚礼を控えていた次女も死去。

_田沼意次の活躍もあって、いわゆる天明文化の繁栄をもたらしたが、

・・・・・・1777＝40歳：_この頃から、夏季の異常低温が始まって、凶作が続くようになり、

源内獄中死・1779＝42歳：*忠臣松平武元が死去したのに続いて、世子徳川家基が急死(オランダ人から再び献上されたペルシャ馬から落馬した際の怪我によるらしい)してしまうと、体調不良を訴えるようになり、幕政を老中田沼に任せ、自らは好きな将棋などの趣味に没頭し始め、・・・・・・1780＝43歳：右大臣に転任、_表向きの宰相の座も弟の徳川家好に譲ってしまう。・・・・・・1781＝44歳：_反田沼派のシンボル松平定信の登場を妨げようとする田沼の献策で、一橋家当主徳川治済の長男豊千代(後の第11代将軍徳川家斉)を養子とするが、

天明大飢饉始1782＝45歳：蘭学階梯・・・・1783＝46歳：_浅間山大噴火で飢饉がピークに達し、とくに七段を允許された将棋は、残っている棋譜から、現在のアマ高段者レベルだったと推定される。新しい将棋用語を考案し、盤を右上から'いろは'で呼んだ。詰将棋を作成する才能に優れ、晩年には、図式集「御撰象碁攻格」百番を著している。一方でマナーは悪く、対局中に難局の場面で、待ったをして、駒を元に戻したとも伝えられている。早く目を覚ますことが多くなると、廁に行く時も当番の御小納戸役を起こさないように抜き足差し足で廊下を歩いたり、溜息をついていた近習が、金が無いため家の雨漏りを直せずにいるためと知ると、100両を渡すなど優しい面も多く発揮しながら、

田沼意次失脚1786＝49歳：*反田沼派のクーデタのなか、在職のまま、没した。死因は脚気衝心(脚気による心不全)と推定される。